



所沢市民放射線測定室「とこらぼ」ニュースレター2022年12月

発行:とこらぼ運営委員会

メールアドレス tokolabo2013@gmail.com ホームページ <http://children-foundation-tjimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/tokorozwahousyasensokuteijo>



いつもとこらぼにご支援いただき、ありがとうございます。442年ぶりの皆既月食と天王星食という稀有な機会を体験し、さらに次回は322年後と聞き、科学的な計算でわかることのスケールの大きさに感嘆しました。一方で科学でわかっていることはまだ全体の5%と言われる世界です。とこらぼが、さまざまな意見の交流を通して、科学を使いこなす知恵を育む場であってほしいと願います。今回のニュースレターも、多くの方に寄稿いただき、お礼申し上げます。今後もお力添えをよろしく願いいたします。



【10周年とこらぼまつり】

皆さまに支えて頂き、お陰様で「とこらぼ」は開設10周年を迎える事ができます。本当にありがとうございます。この記念すべき節目に、いつもとこらぼのアドバイザーをしてくださっている小豆川先生をお招きしての楽しいイベントを計画しています。

例年1月に開催していましたが2023年3月に行います。参加をお待ちしています。

小豆川勝見先生の「超分かり易く・ワクワクドキドキの放射線授業」

◎授業のめあて「放射線を見つけられるようになる!!」

実際に小学生に行った授業を再現して頂きます。

さあ!!あなたも小学生になったつもりで参加してみませんか?

◎日程 3月19日(日) 13時35分~14時20分 先生の授業

休憩

14時30分~15時30分 質疑応答・交流会

◎場所 未定 (所沢市内公民館等を予定)

◎ご案内

先生は、全国各地でも依頼を受けて小中学校で出前授業を行なっています。

また世田谷区では教育委員会の放射線アドバイザーを務めるなど、子どもの教育に精力的に取り組んでいます。この前は、小学一年生にも行ったということで驚きです。

一体どの様にして子どもたちに目に見えない放射線のこと、物理の世界のお話をされているのか、大人の私たちも体験できるようお願いしました。

【とらぼのつぶやき】

“小説『バラカ』を読んで”

最近、過度な競争、権力による監視や管理が暴走している架空の日本(2010~2050年くらいと思われる)が舞台の桐野夏生の『バラカ』を読みました。バラカとは、様々な人間が取った愚かな行動に巻き込まれながらも逞しく生きていく一人の少女の名前です。舞台は競争社会の中で疲弊した人々、外国人労働者、差別される人々、東日本大震災、福島原発の事故も4基の原子炉が爆発し、首都機能は関西に、オリンピックも大阪オリンピックとなったようなかなり過酷な現在であり、近未来があります。

小説は、競争社会の中で、勝ち組にしがみつこうとする人々の浅ましさや外国人労働者の置かれた悲惨な状況、逆に正義や善意を貫こうとする人々の人間模様が展開します。その中で、原発事故は過去の出来事であり、もう収束して何も問題はないのだとする為うごめいている権力の様子が不気味です。でも権力者は、一人も登場しません。その末端であらゆる手段を用いてかかわる人々の情け容赦ない行為のみが描かれています。

現実社会に目を向けてみると、権力の様子はこの物語の中と同じでは無いでしょうか？原発事故の状況は、まったく先が見えないのに一部のメディアを除くと話題になることも少なくなりました。それどころか、「原発は二酸化炭素を出さないクリーンなエネルギー」とか、「エネルギーの安定供給には原発は必要」、「小型原子炉なら安全」、さらには、既存の原発の再稼働や運転期間のさらなる延長などが平然と語られ始めています。また、それと並行して、夏と冬の電力の使用が多くなる時に合わせて、電力がひっ迫するということが頻繁に広報されています。この二つは、あらゆるメディアを動員してことあるごとに国民に刷り込まれつつあるように思います。原発だけでなく、平和主義を嘲笑し、軍事力の増強を叫んでいる人たちも同じです。権力は、「次世代のために…」なんて言いながら自分たちに都合の良い、目の前の現実を作ることしか考えません。未来のことに責任を取らされるのは、子孫です。

バラカは、周りの大人の嘘に痛い目に会うこともあるけれども、大人の嘘を見抜いて自分の頭で考え行動し、仲間とともに自分の未来をつかみます。重ねて言うようですが、私たちも、自分の頭で考えて行動し、仲間を増やしてゆくことが未来につながるただ一つの道なのだと思います。



(公開測定時に皆で検体を詰めています)

【小豆川勝見先生の「放射線量測定」学習会】

8月7日に開催された学習会の感想を、「放射能から子どもを守る会・清瀬」事務局の福田 緑さんにいただきました。

2022年8月7日、新所沢公民館において放射線量測定に関する学習会が開かれた。講師は東京大学助教の小豆川勝見先生である。

「放射能から子どもを守る会・清瀬」は福島第一原発事故後、2012年から東京都清瀬市内の公園、児童遊園、ポケットパークなど、子どもたちがよく遊ぶ場所の放射線量調査を継続している。当初のメンバーが家庭の事情で抜けてからは天野登会長が1人で調査を続けていた。そこに私と仲間が弟子入りし、2018年からは4名で活動している。しかしデータの取り方、まとめ方、その読み方などについては自信が持てず、ホームページにデータを発表するに当たってきちんと学びたいと「とこらぼ」の上石さんにご相談したところ、この学習会を設定して下さったのだった。



私たちが疑問に思っていたことと、それに対する小豆川先生のお答えを以下にまとめておく。

1) 計測方法について

Q. 1mで空間線量を、その後地上5cmで線量を計り、ベンチなどの値が高い場合はベンチの座面に直置きにして測ってみたりしているが、このような測り方で大丈夫だろうか。また、なぜ1mなのか教えていただきたい。

A. 福島第一原発事故後に線量調査が広く行われるようになったが、測り方がバラバラでは比較検討ができないので、統一した方が良く決まったのが、この1m、地上5cmという測り方。海外では直置きなども多いので、それがどのような測り方をしたのかきちんと書いてあれば良い。

2) データのまとめ方と読み取り方について

Q. データの一覧表の項目に過不足はないだろうか。また、子どもたちへの影響を考えると $0.08 \mu\text{S}/\text{h}$ 以上は要注意という意味合いで赤文字にしているが、この数値は適切だろうか。

A. データの一覧表にはどこのどんな場所かを明記し、できれば地図や写真などがあってイメージ化を図ると良い。(項目は特に問題なさそう)赤文字で注意を促すのもその地域で基本的な線量が違うので良いと思う。どのような意図で赤文字にしているのか凡例に書く必要はある。

セシウム137の半減期は30年。事故後11年目の今年でどれだけ残っているか。ほとんどの人は相当減ったと思っているだろうが、まだ77%位は残っている。どこがどのように汚染しているのか調査し続けることはとても大切。

先生が福島の帰還禁止区域に入って線量調査をしていると職務質問にあうことがしばしばだという。それでも通い続けているのは除染を繰り返してもなかなか線量は下がらない、それでも帰還するならここはどうしても除染しないとダメだというデータを提示できるようにするためだとおっしゃるのに胸を打たれた。ホットスポットを予測できるように勘を身につけることも大切とのこと。線量計を体のあちこちに着けてデータを取っていると、笑いながら話され、これからも調査し続けるという強い思いが伝わってきた。私たちにも、計測しながら地元の人々と交流し、子どもたちから放射能への関心を引き出すような計測を続けて欲しいと話を締めくくられた。

エネルギーがほとばしるような小豆川先生のお話、清瀬から駆けつけた私たちも元気をいただいた。先生と、とこらぼの皆さんに心から感謝している。

【とらぼ会員の声】

狭山市の丸橋ユキさんから投稿を頂きました。
フォトグラファー、さやま市民ネットワーク準備会代表として活躍されています。

“言い続けること 忘れないこと”

『とらぼ(市民放射線測定室)から届いたニュースレターが重かった。

伊東市の有機栽培農家さんの玄米、白米、米ぬか、粃殻、玄米餅の測定結果。その農家さんの心情も、「丹精込めて有機栽培でお米や野菜作りをしている苦労話」を直に聞いた測定員さんの胸の内も想像すると重い。埼玉県のどこかの有機栽培米はNDという結果で、原発からの距離は参考にならないケース。

同紙には富士見市の有機栽培農家さんの声もあった。3.11直後に野菜の販売をやめなかったことを「本当にひどいことをしたと反省しています」と綴っている。夏になって初めて土と麦の放射線量を測定し、その数値を見て3.11当時はもっと高い値が出たに違いないと悔やまれている。でも、測定せずに売っているところの方が多いでしょ。一所懸命やっている人がつらい思いをするのが、ずしりと来る。』

上記は、8月にとらぼニュースレターを読んだ私がFacebookに独り言のように吐き出した感想です。3.11をきっかけに、皆それぞれに違った心の痛みを経験していたのだなあと思いました。

私の痛みを紹介します。

原発事故後、私が問題解決のために動いたことといえば署名用紙に名を連ねる程度でした。情報収集は毎日かなりしていましたが、第一の目的は自分と家族の身を守ることでした。問題の大きさを知るにつれ、何ができるのかわからず、社会的な行動を起こせない自分には自責感を抱きました。それでもこだわってやっていたことは、原発や放射能の問題について話題にすることです。SNSのようなインターネット上のクローズドなコミュニティでは激しく意見を交わしている人たちを見かけるものの、不思議と対面では、相手からこの話題を振られることはほとんどありませんでした。私は、相手が誰であれ日常の中で普通のことのように話していました。

知人と一緒の夕食の席では、メニューを選ぶ際に「放射能が心配だから、こっちにする」と口にしました。風評を助長すると怒る人もいるかもしれませんが、事実関係がわからない中で心配は「風評」ではありません。見ないふりはできても、自分のまわりには確かに放射性物質が存在し続けているのですから、胸を張って不安を抱くことにしました。すると、まるで無関心を振舞っていたまわりの人たちの反応は、意外なことに「私も心配」というものでした。気にしたことなどなかったという人であっても「やっぱり怖いの？」と前のめりになって質問してくることも多く、皆、心のどこかに放射能の問題が引っかかっているのだと知りました。

私はときどき、スーパーマーケットの「お客様からのご意見箱」に放射能測定や産地記載のお願いを書き入れていました。お店の側に関心を持ってほしかったからです。原発事故後、食品メーカーに放射能検査について問い合わせをして回答を発信している人たちがいましたが、私と同じ意図があったのだと思います。

原発事故から11年。次第に社会の記憶が薄らぐ中で、自分の一言によってまわりの人が思い出したりほかの誰かと話してくれたりすればいいと、尚のことと思います。今となっては、話題にすることも大事な仕事だと思っています。



「とらぼ」では以下のような業務をお手伝いしてくれる方を随時募集しています

測定スタッフ//測定補助・受付手伝い//公園土壌調査プロジェクトスタッフ//公開測定メンバー
ご自宅やご自宅周辺でできる作業もありますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。
メール：tokolabo2013@gmail.com 電話：080-6257-2306



「とらぼ」メーリングリストに登録しませんか？

公開測定のご案内や結果速報、イベント情報を随時発信しています。

登録ご希望の方は、上記メールアドレスに「メーリングリスト登録希望」と書いてお送りください。